まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和７年　４月２８日
豊玉中学校だより　Ｎｏ．２３

今年度で３年目を迎えました校長の慶野 富士夫でございます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

今年度も桜の花が咲き誇る中、始業式、入学式を迎えることができました。入学式が終わり、全校生徒２９１名でのスタートとなります。入学式では、新入生の大きめの標準服に身を包み、まだ幼さが残る表情ながら決意に満ちた返事や姿勢、在校生の歓迎する雰囲気の中に。まるで自らの成長を披露するような態度により、感動的で素晴らしい式にすることができました。これからも生徒主体の取組により、保護者の皆様から信頼され、地域と共に歩む学校を目指し、教職員一同努力してまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和７年度　始業式

４月７日（月）に令和７年度始業式が行われ、新２・３年生計１９５名が進級しました。保護者の皆様おめでとうございます。以下が始業式での校長講話になります。

～　一部省略　～

今年は昭和で言うとちょうど百年の節目にあたります。そして、日本の最後の戦争である第二次世界大戦の終結から80年の年でもあります。この戦争では、日本が敗戦国となり、広島や長崎には原爆が投下され、東京では大規模な空襲があり、多くの尊い命が犠牲となりました。爆弾によって町は破壊され、焼け野原となり、人々は途方に暮れました。しかし、日本はそこから立ち上がりました。戦後、日本は困難を乗り越え、多くの人々が努力を積み重ねたことで復興を遂げ、今では世界有数の先進国となっています。この80年間、日本は何度も挑戦し、失敗を重ねながらも前に進んできました。失敗を恐れず、努力し続けたからこそ、今の日本があるのです。この歴史が示すように、失敗は成功への通過点です。大切なのは、挑戦をやめないこと。困難に直面したとき、どう向き合い、どう乗り越えていくか。その姿勢が、自分の未来を決めるのです。

同じ戦争の歴史の中で、もう一つ私たちが知るべきものがあります。これまでに何度か皆さんに話してきましたが、それは赤十字の精神です。赤十字の起源は、1859年のソルフェリーノの戦いに遡ります。スイスの実業家アンリ・デュナンは、戦地で傷ついた兵士たちが苦しんでいる姿を目の当たりにしました。そこで彼は、「敵味方関係なく、この人たちを救いたい」との思いを抱き、仲間を集め、戦場での救護活動を行う組織を作り上げました。それが、赤十字の始まりです。その功績が認められ、デュナンは第一回ノーベル平和賞を受賞しました。

赤十字の活動には、「気づき・考え・実行する」というスローガンがあります。デュナンはただ「救いたい」と思うだけではなく、仲間を集め、実際に行動に移しました。彼の活動がなければ、負傷した兵士たちは放置され、命を救う手段がなかったかもしれません。大切なのは、気づいたことを考えるだけでなく、行動に移すことです。皆さんも、学校生活の中で気づいたことをよく考え、問題があれば解決に向けて話し合い、そしてその考えをぜひ行動に移してほしいと思います。皆さんの小さな行動の積み重ねが、豊玉中学校をより良い学校へと進化させていくのです。

しかし、行動に移すには勇気が必要です。「失敗したらどうしよう」という考えが浮かび、一歩前に出ることに躊躇することがあるかもしれません。でも、ここで皆さんに伝えたい言葉があります。心理学者アルフレッド・アドラーの言葉、「失敗ばかりしているのではなく、たくさんの挑戦をしているのだ。」です。この言葉のとおり、失敗は悪いことではなく、挑戦の証です。何かに挑戦すれば、当然失敗することもあります。しかし、失敗を乗り越えることこそ、成功への一歩です。戦後の日本もそうでした。赤十字の活動もそうです。偉人たちも、最初から成功していたわけではなく、何度も失敗を乗り越えて大きな成果を築きました。例えば、スポーツ選手は何度も練習を繰り返し、失敗を経験しながら技術を向上させます。研究者は、何度も試行錯誤を重ねた結果、大きな発見を生み出します。皆さんも、これから授業や学校行事、部活動などで、たくさんの挑戦をすることになるでしょう。どれも簡単なことばかりではありません。しかし、失敗を恐れずに行動し、挑戦し続けることで、確実に成長できるのです。

今日から、皆さんの新しい一年がスタートします。新たな目標、新たな挑戦、新たな学びが待っています。私は、皆さんが勇気をもち、自信をもって前に進んでいくことを心から願っています。失敗を恐れず、挑戦し続けることが、未来への第一歩です。第二次世界大戦の復興の歩みから学び、赤十字の精神の助け合いの心を感じ、アドラーの言葉を胸に刻んで、一歩ずつ前へ進む一年にしていきましょう。皆さんの挑戦が、学校をより良くし、社会を変える力になっていきます。皆さんなら、きっと新しい挑戦を楽しみながら、素晴らしい一年を築いていけるはずです。今年も皆さんと共に、多くの感動を分かち合える一年にしたいと思います。今日の話は以上です。

令和７年度　入学式

４月８日（火）には入学式が挙行され、新入生９６名を迎えることができました。保護者の皆様、改めておめでとうございます。以下に校長の式辞を紹介いたします。

～　前半省略　～

この先、皆さんは大きな節目を迎えます。2027年、令和９年には、皆さんが３年生として、豊玉中学校の創立80周年を迎えます。長い歴史を刻んできた学校の記念すべき節目に、皆さんは最高学年として大きく成長し、学校の中心として活躍し、多くの下級生たちを導く存在として期待されています。さらにその３年後、2030年、令和12年になると、皆さんは、18歳の成人として新たな人生のステージへと進む時期を迎えます。この2030年は、世界全体にとっても特別な意味をもつ年です。 国際社会では、「持続可能な開発目標（SDG's）」の達成期限として、これまで世界中で取り組まれてきた多くの環境や社会課題への取組が、一つの区切りを迎えます。この目標の達成に向けた努力は、新しい時代への道しるべとなります。そして皆さんはその新しい未来を担う世代なのです。学びや経験を通じて、自分自身の可能性を広げるだけでなく、未来のリーダーとして輝いてほしいと思います。

そして今年、2025年、令和７年には、大阪で55年ぶりに万博が開催されます。 今回の万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。世界中から人々が集まり、地球規模の課題に取り組むための革新的な発想や技術が発表されます。ＡＩや再生可能エネルギー、新しい医療技術など、未来を形作る重要な取組が紹介される予定です。これらは、皆さんの学びや挑戦に深く関わるものです。しかし、このような技術や社会の発展は、長い年月をかけて築かれてきたものです。これまで多くの人々が挑戦を続け、努力を積み重ねてきたからこそ、今の私たちはその成果を受け取り、新たな未来へと進んでいけるのです。

さらに前回1970年に行われた1回目の大阪万博では、現代のスマートフォンにもつながる無線通話技術、中央新幹線の原型となるリニアモーターカー、電動アシスト付き自転車の元となった電気自転車などが、当時「夢のような未来」を象徴する技術として紹介されました。また、回転寿司や缶コーヒーといった、今では日常に溶け込んでいるものも、この万博で注目されたことが普及のきっかけとなりました。これらの成功例が示す通り、大きな夢を実現するためには、幾度となく試行錯誤を繰り返し、時に失敗も経験しながら挑戦を続けることが必要です。同じ大阪という場所で55年ぶりに開催される今回の万博は、時代を超えて「夢を諦めないこと」の重要性を私たちに教えてくれる、象徴的な機会です。未来を切り開くためには、挑戦し続ける勇気と困難に立ち向かう強い意志が必要です。そして、たゆまぬ努力が積み重ねられることで、「夢のような未来」が現実のものとなるのです。

これからの中学校生活では、楽しいことばかりではなく、時に困難に直面することもあるかもしれません。失敗を経験することもあるでしょう。しかし、本当につらいときは後ろにいる家族や上級生、皆さんの周りにいる先生や地域の方々もいます。そして、大勢の仲間が共に悩んでくれます。相談したり、支え合ったりしながら決してあきらめず困難を克服していってほしいと思います。困難を乗り越えたとき、皆さんはより強く、たくましく成長していきます。そして新しい可能性と喜びが待っています。

結びになりますが、ご臨席のご来賓の皆様、保護者の皆様、在校生の皆さん、教職員一同、心を一つに合わせ、新入生の今後の活躍と成長を見守っていきましょう。さらに新入生の皆さんとともに、豊玉中学校をさらに発展させていきましょう。この新しい旅立ちの日を、私たちは共に喜び、全力で応援します。